



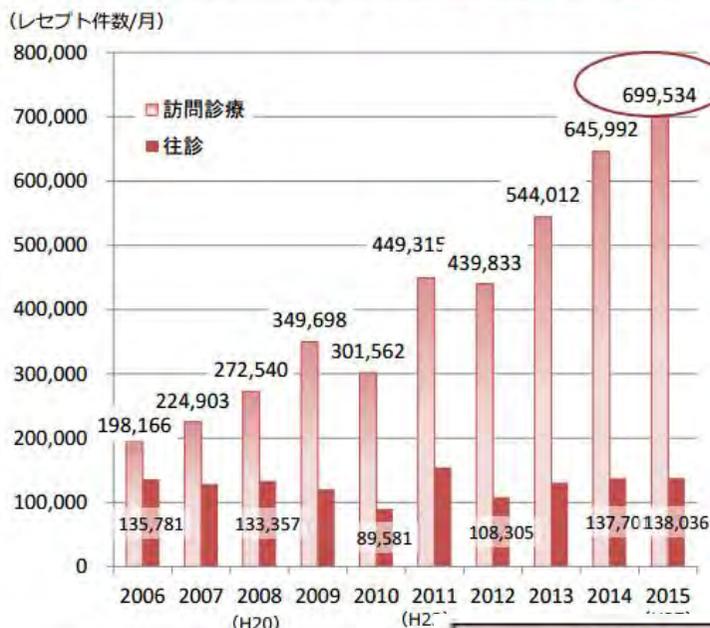
在宅医療のニーズが急増

在宅医療を受ける患者の動向

- 訪問診療を受ける患者は、大幅に増加。往診の患者は横ばい。
- 訪問診療を受ける患者の大半は75歳以上の高齢者であるが、小児や成人についても一定程度存在し、その数は増加傾向。

訪問診療：患者宅に計画的、定期的に訪問し、診療を行うもの
 往診：患者の要請に応じ、都度、患者宅を訪問し、診療を行うもの

在宅患者訪問診療料、往診料の算定件数推移



出典：社会医療診療行為別統計（厚生労働省）

在宅患者訪問診療の年齢階級別の構成比

	(レセプト件/月、%)		
	2008 (H20)	2011 (H23)	2015 (H27)
計	272,540	449,315	699,534
0-4歳	0 (0.0%)	38 (0.0%)	598 (0.1%)
5-19歳	0 (0.0%)	1,085 (0.2%)	1,165 (0.2%)
20-39歳	2,502 (0.9%)	3,499 (0.8%)	3,909 (0.6%)
40-64歳	12,443 (4.6%)	23,074 (5.1%)	19,542 (2.8%)
65-74歳	31,488 (11.6%)	35,384 (7.9%)	49,719 (7.1%)
75-84歳	93,044 (34.1%)	152,390 (33.9%)	200,606 (28.7%)
85歳以上	133,063 (48.8%)	233,845 (52.0%)	423,995 (60.6%)

	2008 (H20)	2011 (H23)	2015 (H27)
85歳以上	133,063 (48.8%)	233,845 (52.0%)	423,995 (60.6%)

中医協総 - 3 29.1.11

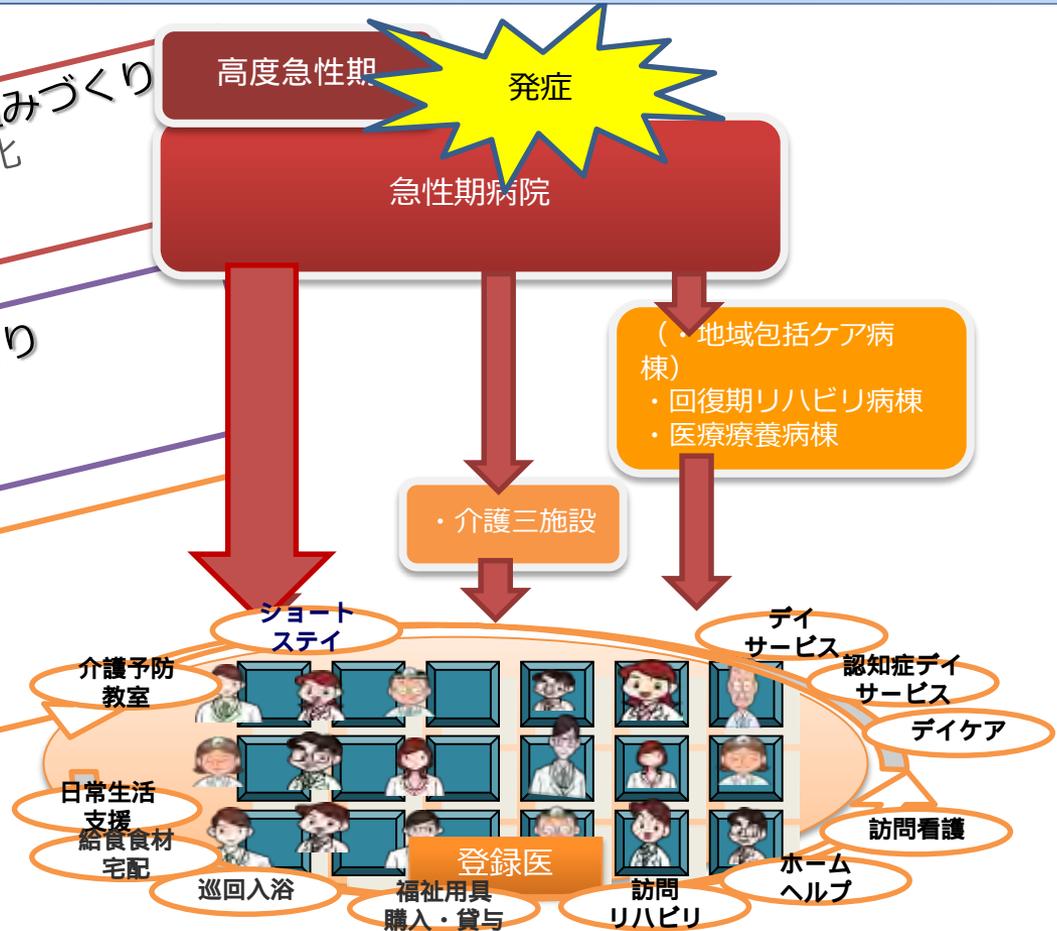


「治す医療」から「治し支える医療」への転換を本格化

(1) 安心して在宅へ返すための院内の仕組みづくり
 ① 多職種協働フラット型チーム医療の強化
 ② DCU (Dementia Care Unit) の開設

(2) 退院後もケアの継続を図る仕組みづくり
 ③ 電子カルテのクラウド化
 ④ MBC (Medical base camp) の開設

(3) 地域と共に支える仕組みづくり
 ⑤ IoT・AIを使った在宅見守りシステム
 ⑥ 介護支援システム





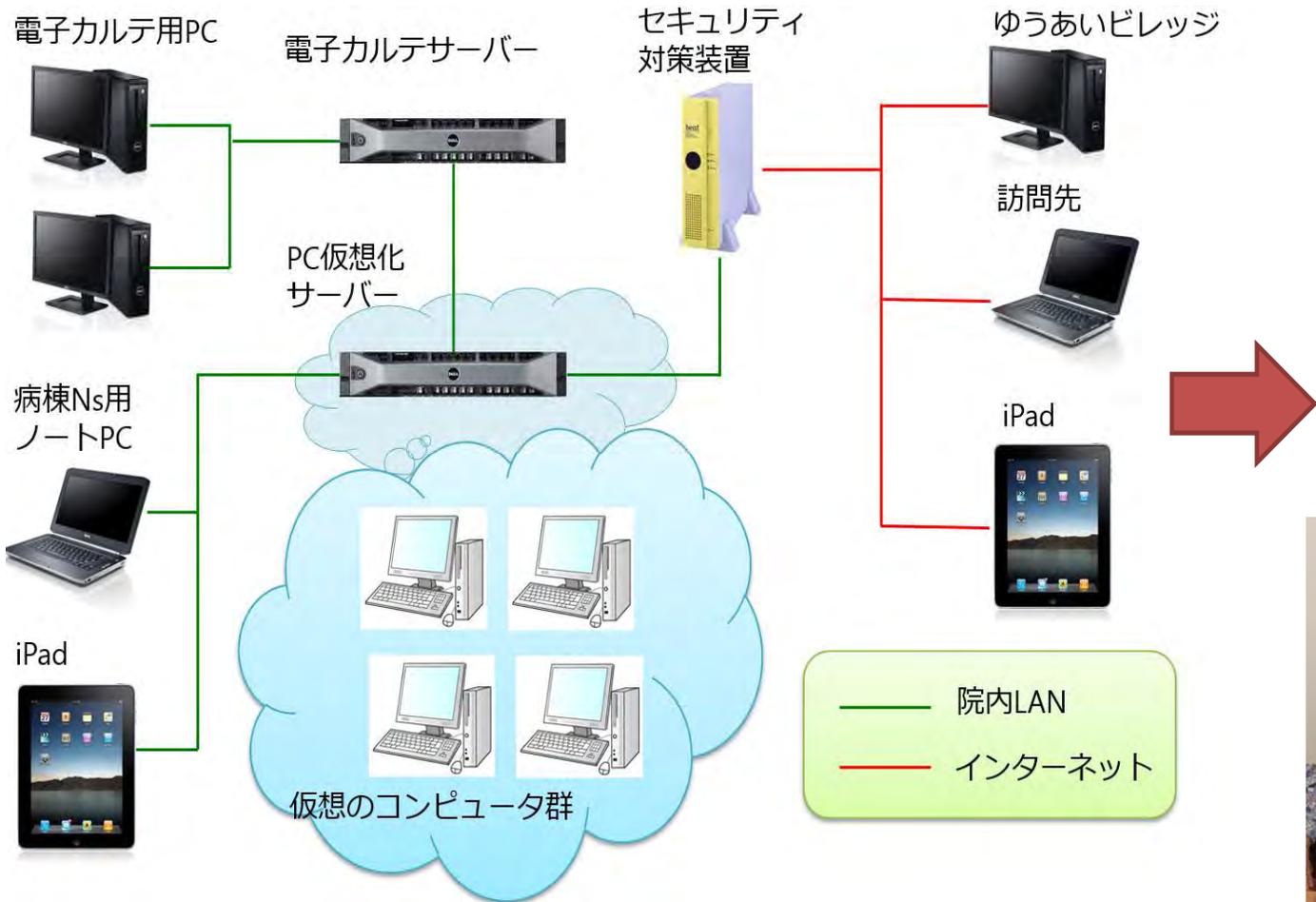
「治す医療」から「治し支える医療」への転換を本格化

退院後もケアの継続を図る仕組みづくり

- ① 電子カルテのクラウド化
- ② MBC(Medical base camp)の開設



①電子カルテのクラウド化（デスクトップの仮想化）



在宅でも
電子カルテの活用が可能